

## 博士論文要旨

博士論文(本論文)名

A Study to Explore Factors Associated with Basic Life Support Training for Pharmacy Students and Changes in Awareness Before and After the Course  
薬学生を対象とした一次救命処置講習受講前後の意識変容に関連する因子の探索に関する研究

兵庫医科大学大学院薬学研究科

医療薬学専攻

応用医療薬学(研究指導教員 木下 淳)

氏名 橋本 佳奈

【研究目的】薬学教育モデル・コア・カリキュラムおよび日本薬剤師会制定の薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダードには、一次救命処置(Basic Life Support ; BLS)に関する知識と技能に関する到達目標が記載されており、薬学生に対してBLS教育の実施が求められている。一方、薬学生へのBLS教育に関する研究成果は散見される程度であり、心理分析手法を用いて詳細に研究された報告はない。そこで本研究では、胸骨圧迫および自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator ; AED)の方法を重点的に実施する市民向けBLS講習であるPUSHコースを薬学生に実施し、BLS講習の受講満足度を調査したほか、受講前後の意識変容の有無を検証した。

【研究方法】対象は、兵庫医科大学薬学部4年次生のうち、本研究への参加の同意を得た者とし、受講前後にアンケート調査を実施した。アンケート内容は、救急に関する世論調査の調査項目や薬学生を対象とした心理分析に関する先行研究を参考にして設定した。回収したアンケートの各回答項目は、単純集計したうえで、受講前後の回答分布を比較した。また、BLSへの自信や覚悟、不安および指導意欲に関する質問への回答データを基にした探索型因子分析により、薬学生のBLSへの自信や覚悟、不安および指導意欲に関する心理状態に影響を及ぼす因子を探索し、因子分析で得られた因子得点を基に、階層型クラスター分析を実施した。

【研究結果】解析対象は99名であった。受講前後の回答を比較した結果、PUSHコースの受講によりBLSへの自信や覚悟、指導意欲の向上および不安の軽減が認められた。受講前の回答結果を用いた因子分析では4因子が、受講後は3因子が抽出され、受講前に抽出されたBLSへの自信の無さは、受講後には反転して新たな因子を形成しており、一定数の薬学生に意識変容が生じることが確認された。階層型クラスター分析により、受講前後の回答者を3群に分割した結果、受講後はBLSへの強い不安を持つ群が減少していた。また、単純集計結果より、対象者のPUSHコースの適用による受講満足度は高いことが示された。

【考察】本研究では、薬学生に対するBLS講習の方略としてPUSHコースを実施し、受講生の意識変容の有無について調査した。その結果、PUSHコースの適用により一定数の薬学生にBLSへの不安の軽減や自信の芽生え、他者との協働といった意識変容が生じたこと、受講生が高い満足度を示したことを明らかにした。以上のことから、市民向けBLS講習であるPUSHコースが我が国の薬学教育に有用であることが示唆された。